

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年9月26日(金) 5校時
児 童 4年B組 男11名 女11名 計22名
指導者 伊 東 芽 生
奥 千穂子(支援員)

1 単元名 新美南吉の本のよさをリーフレットでしようかいしよう

教材名 ごんぎつね

2 単元を貫く言語活動の特徴

本単元では、児童に「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読む」(読む)力を身に付けさせたい。そのために、「新美南吉の本のよさをリーフレットでしようかいする」という言語活動を単元を通して位置付けた。

今回位置付けたリーフレットは、学級みんなに紹介するリーフレットと設定し、リーフレットの中に登場人物の設定・クライマックス前後の登場人物の気持ちの変化に対する自分の考え・物語を読んだ感想と本のおすすめポイントを取り入れる。リーフレットに盛り込む内容に従って、登場人物の設定を導入部分でしっかり押さえ、登場人物同士の関係性や登場人物の気持ちの変化に着目しながら読む学習を進める。

今回取り上げる新美南吉の本は、「ごんぎつね」と同様に動物が主役の作品が多い。また、会話文や情景描写などから登場人物の心情の変化がとらえやすく、人物や状況を読む手がかりとなる叙述も多い。新美南吉の作品を多読することで、第二次で付けた登場人物の気持ちの変化や関係性について読み取る力を、第三次でも生かすことができると考えた。

3 単元について

(1) 児童について

学級の児童はこれまでに、3年「モチモチの木」で登場人物の気持ちを考えたり、人柄を想像したりして読み、ブックポスターにまとめた。4年「白いぼうし」では、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読むことを学習し、音読劇を行った。また、4年「一つの花」では、人物の会話や行動に着目して登場人物の気持ちを読み、自分の感想や考えを入れながら読書会を行った。

しかし、登場人物の性格や気持ちを想像して読むことのできる児童は増えてきた一方で、「かわいそう」「楽しそう」など、想像した気持ちの表現が一言で終わってしまう児童もいる。また、考えた登場人物の気持ちが、どの叙述に基づいているかや、そう考えた理由を明確にするなど、考えの根拠を述べられる児童はまだ多くはない。

そこで本単元での学習を通して、既習の読みの力を生かして、叙述をもとに読み、登場人物の関係性や気持ちの変化を、考えの根拠を明らかにして読む力を伸ばしていきたい。

(2) 単元について

「ごんぎつね」は、兵十にしてしまったいたずらの償いをせよとする「ごん」の行動に児童が寄り添いながら読むことのできる教材である。またそんな行動の一方でごんは「神様にお礼を言うんじゃあ、俺は引き合わないなあ」と呟く場面もあり、自分を認めてもらいたい、許してもらいたいという思いも想像することができる。これら気持ちに共感する児童も多いだろう。結びの場面では兵十に撃たれてしまうという無残な結末に誰もが心を揺さぶられ、登場人物の関係性や登場人物の気持ちの変化を追っていくことで、児童の読む力を高めることのできる教材である。

「ごんぎつね」を読むにあたって、本単元では「登場人物の設定」「登場人物同士の関係性」「登場人物の気持ちの変化」ととらえていく。「登場人物の設定」とは、ごんはいたずらばかりする悪ぎつねであり、村人たちはごんのいたずらに非常に困っていたという設定をしっかりとおさえる。「登場人物同士の関係性」とは、ごんはウナギのいたずらを後悔し、償いを続けることから、兵十への思いの強さが分かるが、その償いに気が付かない兵十とごんの思いは交わることがないという関係性をおさえる。「登場人物の気持ちの変化」とは、ごんの自分がしてしまったいたずらに後悔する気持ちや、償いに対する兵十の受け止め方に、引き合わないと嘆く気持ち、しかしその後も償いをやめないごんの兵十に対する強い気持ちなどの変化をおさえる。一方で兵十はクライマックスの場面までごんへの気持

ちに変化はなく、ごんを悪ぎつねだと思っていることをおさえ、二人のすれ違いの関係性をとらえる。これらの登場人物の気持ちを本単元ではしっかりととらえていく。

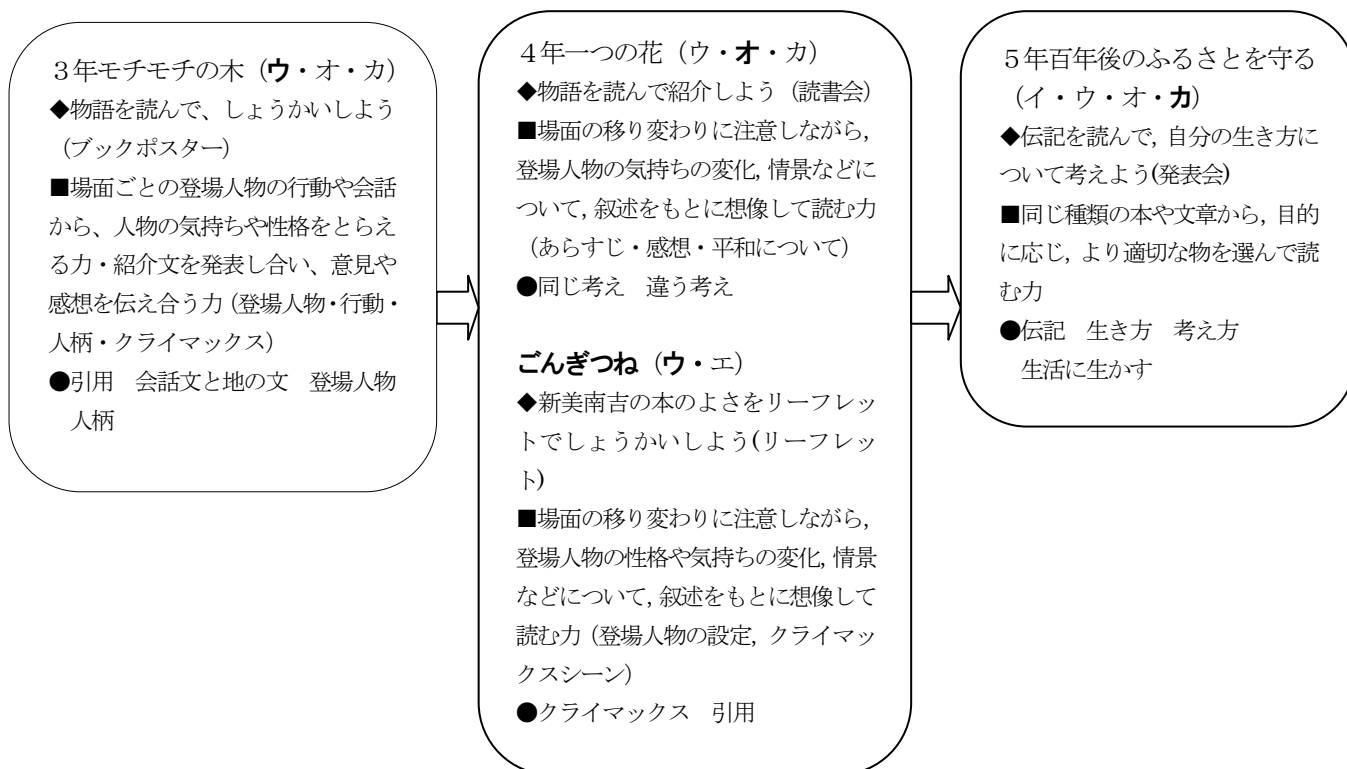
(3) 指導にあたって

本教材の指導にあたって、次のような点に留意する。

- ① 朝読書の時間や読み聞かせのボランティアなどを利用して、新美南吉作品の読み聞かせをしたり、作品を学級文庫に置いたりして、新美南吉作品への興味・関心をもたせ、読書の楽しみを味わわせる。
- ② 第1次の単元の学習計画で、「新美南吉の本のよさを、リーフレットでしようかいする」という言語活動を行うことを提示することで、学習内容を明確にするとともに、第2次に向かって何を学習していくのかを意識させる。
- ③ 第2次の学習では、登場人物の設定や登場人物同士の関係性・気持ちの変化を中心に読み進めていく。そして第2次の最後には「ごんぎつね」のリーフレットを完成させ、第3次のリーフレットに対する見通しをもたせる。リーフレットには、登場人物の設定・クライマックスシーンの前後の登場人物の気持ちの変化についての自分の考え・物語を読んだ感想と本のおすすめポイントを書く観点として取り入れる。
- ④ それぞれ想像したことを付箋に書き込んで、ペア・3人組で交流を行う。互いの考えたことを交流しあう中で、一人ひとりの感じ方の違いに気付かせたい。そして読み取ったことをもとにリーフレット作りを行い、第3次の学習へつなげる。
- ⑤ 第3次の学習では、「ごんぎつね」の学習を活用し、自分の選んで読んだ新美南吉の本について、リーフレットにまとめる活動をする。

(4) 本単元にかかわる言語活動系統表

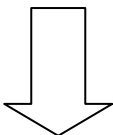
◆単元名 ■付きたい力（言語活動の構成要素、読みの観点） ●大切な用語・使わせたい言葉



4 単元の学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
関 意 態	○新美南吉作品の本を選んで読もうとする。	○新美南吉作品の本のよさを見付けようと、本を選んで読んでいる。
能 力	◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。(読ウ) ○必要な文章を引用したり要約したりして紹介することができる。(読エ)	◎「ちょっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」や「こいつはつまらないな。」といった文章や言葉に着目しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などを読んでいる。 ○ごんや兵十の行動や性格、人物の出来事との関わりについて読み、リーフレットをまとめ、紹介している。
知 理 技	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、自分の考えを伝えるための語句を増やすことができる。(伝国イーア)	○自分の考えを伝えるための語句を増やそうとして、リーフレットの中に自分の考えを伝えるための言葉を使っている。

5 単元の指導計画と評価規準 13時間

	主な学習活動	ゴールへの 並行活動	評価規準
第 一 次 (2)	1 これまでの読書経験を振り返る。 単元の学習課題を確認し、学習計画を立てる。 新美南吉の本の並行読書をする。 2 「ごんぎつね」を読んでおおまかなあらすじや登場人物をつかみ、初発の感想を書く。 初発の感想交流をする。	新美南吉作品の中から興味のある本を選び、並行読書を行う。	【関】新美南吉の本に興味をもち、学習に意欲をもっている。(観察・発言) 【関】物語に興味をもって範読を聞き、自分なりの感想をもっている。(ノート・発言・観察)
第 二 次 (7)	3 「ごんぎつね」の登場人物の設定や場面状況をとらえ、リーフレットにまとめる。 4～6 登場人物に起きた出来事から、登場人物同士の関係性や登場人物の気持ちの変化をとらえる。(クライマックスの前まで) 7 クライマックスシーンを読み、ごんと兵十の心の通い合いについて自分の考えを書く。(本時) 8 物語を讀んでの感想と本のおすすめのところをリーフレットにまとめる。 9 書きためてきた物を割り付けし「ごんぎつね」のリーフレットを完成させる。	「ごんぎつね」の学習を参考に登場人物の気持ちの変化に着目しながら並行読書を進める。 	【読】会話や心情表現、行動から登場人物の性格や気持ちの変化などを読み取っている。(ワークシート・発言・観察) 【知理技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(観察・リーフレット・発言) 【読】人物の行動や性格、人物の出来事との関わりについて読み取り、リーフレットをまとめ、紹介している。(観察・リーフレット・発言)
第 三 次 (4)	10 自分が紹介する本の場面状況や登場人物の設定について、リーフレットにまとめる。 11 自分が紹介する本のクライマックスシーン前後の登場人物の気持ちの変化について、リーフレットにまとめる。 12 自分が紹介する新美南吉の本を讀んでの感想や、選んだ本のおすすめのところについてリーフレットにまとめる。 13 リーフレットをもとに並行読書の本を友達と紹介し合い、感想を述べ合い、単元の学習を振り返る。		【読】新美南吉の本について、会話や心情表現、行動から登場人物の性格や気持ちの変化などを読み取っている。(観察・リーフレット・発言) 【関】自分が選んだ本のよさを紹介するためにリーフレット作りを進んで取り組んでいる。(観察・リーフレット) 【読】友達の本の紹介を、自分の本の紹介と比べながら聞き、違いに気付いている。(交流・観察・発言)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「ごんぎつね」のクライマックスシーンを読んで、クライマックスシーン前後のごんや兵十の気持ちをふまえ、二人の関係性の変化について考えることができる。(読む)

(2) 授業改善のポイント

単元のゴールに向け、クライマックスシーン前後の登場人物の気持ちの変化をふまえて、ごんと兵十の心の通い合いについて、自分の考えを書かせる。その際、そのように考えた根拠まで書かせるようにしたい。

①考えをつなぐ(目的を明確にし、自分の学びや友達との学びのかかわりを国語科用語や語彙を活用して表現し合う活動の工夫)

交流の時に、グループでごんと兵十の心は最後に通い合ったのか、通い合わなかったのかということに焦点を当てて話し合い、友達の意見を聞くことで、その後に自分の考えをまとめ直す際に、考えをより深められるようにしたい。

②学びをつなぐ(指導事項・言語活動の系統性、学びを生かす単元計画)

前時までに読み取って、付箋やワークシートに書き溜めてきた登場人物の設定や出来事、登場人物同士の関係性をもとに、クライマックスシーン前後の登場人物の気持ちの変化をふまえ、二人の心の通い合いについて考えさせる。

(3) 展開

段階	学習内容と主な学習活動	指導上の留意点【評価の観点及び評価の方法】
つかむ 5分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>物語のクライマックスで、ごんと兵十は心が通い合ったのだろうか。</p>	<p>・前時までに読み取った登場人物同士の関係性や出来事をふまえて、クライマックスシーンの登場人物の気持ちの変化に着目して、自分なりの考えをもつことを確認する。</p> <p>②学びをつなぐ 前時までの読み取りや、書き溜めてきたことを用い、クライマックス後のごんや兵十の気持ちの変化をふまえ、心が通い合ったのかどうかを考える。</p>
ふかめる	<p>2 読み取ってきたことをもとに、ごんと兵十の心が通い合ったのか考える。</p> <p>例：私は、二人の心は通い合ったと思います。なぜなら、「ごん、おまいだったのか。」と言った兵十は、ごんのつぐないにそこで気付いて、じゅうでうったことを後悔したと思うからです。その前まで、ずっとごんは自分のいたずらを後悔して、兵十への思いを強めていました。だから、兵十がごんのつぐないに気付いて後悔したことで、やっとごんと兵十の思いが通い合ったと思います。</p> <p>例：ぼくは、二人の心は通い合わなかったと思います。なぜなら、ごんはずっとつぐないを続けてきたのに、最後に兵十にうたれてしまって、悲しかったと思ったからです。それまでも兵十はごんのつぐないに気付かなくて、ごんは「こいつはつまらないな。」と言っています。兵十はごんをうったことは後悔したと思うけど、ごんは結局うたれて死んでしまったので、悲しくて悔しかったと思います。だから二人の心は通い合わなかったと思います。</p>	<p>①考えをつなぐ 単元のゴールであるリーフレットの作成に向け、クライマックスシーン前後の登場人物の気持ちの変化や登場人物の心の通い合いについて、自分の考えをもつ。</p> <p>・書くことができない児童には、二人の心が通い合ったかどうかを中心に考えさせ、どうしてそう考えたかごんまたは兵十の気持ちどちらかを考えるよう促す。</p> <p>【読】「ごん、おまいだったのか」などの叙述を根拠に想像し、ごんや兵十の行動や性格、出来事や関係性をふまえて、二人の心が通い合ったかどうか、根拠を明確にして、自分の考えをまとめている。(ワークシート)</p>

<p>35分</p>	<p>3 3人グループで、自分の考えたごんや兵十の気持ちの変化について交流し、ごんと兵十の心が通い合ったのかどうか話し合う。 思考ポイント</p> <p>4 グループで出た意見を全体に発表する。</p> <p>5 交流や発表をもとにごんと兵十は心が通い合ったのか、自分なりの考えをまとめる。</p>	<p>・友達の考えを聞いてなるほどと思ったかや、自分の考えの参考にしたい点などを考えながら交流を行うように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①考えをつなぐ 友達の考えを聞き、自分の考えを深めるための参考にする。</p> </div> <p>【読】自分の考えの根拠となる叙述を挙げて自分の考えを出し合い、ごんや兵十の行動や性格、出来事をふまえて、二人の心が通い合ったかどうか、友達の考えと比べながら検討している。(ワークシート)</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>6 学習を振り返る。 ・本時の学習を通して、交流によって感じたことや気付いたことを書き、発表する。</p> <p>7 次時の予告をする。</p>	<p>【振り返りの観点】</p> <p>・ごんと兵十の気持ちが通い合ったかどうか、根拠を明らかにして自分の考えをもつことができたか。</p> <p>・本時の感想と、3次に向けて頑張りたいこと。</p> <p>・友達との交流で、なるほどと思ったところや参考にしたいところなど。</p>

(4) 評価規準

<p>評価の方法</p>	<p>ワークシート</p>
<p>評価規準</p>	<p>【読む】クライマックスシーン前後のごんや兵十の気持ちの変化を、考えの根拠を明らかにしながら書き、二人の気持ちは通い合ったのかどうか自分なりの考えをもっている。</p>
<p>努力を要する児童への手立て</p>	<p>兵十がひなわじゅうをうった時の、ごんまたは兵十の気持ちを考えさせ、二人の気持ちの通い合いについて自分の考えが明確になるようにする。</p>

(5) 板書計画

振り返りの観点

○クライマックス

ごんがひなわじゅう
でうたれる

○気持ちを書くときには

- ・なぜなら・・・
- ・それは、・・・の場面／行動から分かります。
- ・前はごん／兵十は・・・
- ・という気持ちだったけど
- ・~~~~と考えました。
- ・~~~~と分かりました。

○交流するときには

- ・自分の考えと同じところ、ちがうところ
- ・友達がそう考えた理由
- ・なるほどと思ったところ
- ・参考にしたいところ

新美南吉の本のよさをリーフレットでしようかいしよう

ごんぎつね

新美 南吉

物語のクライマックスで、ごんと兵十は心が通い合ったのだろうか。